

みつくら

令和 3年 6月15日 第340号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

現展に板垣さんが入選

現代美術家協会主催の第77回現展が6月2日から7日まで東京都六本木にある「国立新美術館」で開催され、板垣弘清さんの「大地の鼓動」が入選し展示された。

現展とは「昭和23年に戦前からの団体である日本作家協会・洋画部と、現代美術研究会、更に新生派美術協会の3団体が集まり、新たな世紀を創る美術を生むために、強力なる発言権と実力を持つ美術団体を作らんとし発足」した美術家団体。板垣さんは現代準会員にも推挙された。

現展の会員になるにはまず入選を目指して現展に出品し、その中から優れた写真家に会友の資格が与えられ、更に入選した中から推挙されて準会員になれる。手元の資料によれば板垣さんは、平成26年に初めて原展に入選、翌27年には「霜晨の湖畔」がクリエイト賞を受賞している。今回の「大地の鼓動」は、好地の石沢にカメラを据え、西方の大瀬川方面に映えた早朝の虹を撮影した作品。一番上の資格である現展会員になれる日も、そう遠くないと思われる。

昨年に引き続き、書面議決となった団体

【交通安全協会大瀬川分会】

交通安全協会大瀬川分会（板垣吉彦会長）は代議員制で総会を行っている。昨年に引き続き代議員（25名）に総会資料を送り、全員の賛成の報告を5月11日に取りまとめ議決されている。

総会資料によると、コロナ禍による集団事業はできなかったが、季節ごとに行なわれる交通事故防止啓蒙活動や交通安全啓発看板の更新と飲酒運転追放全戸訪問を行っている。2年間の事業減により繰越金が増えたため年度会費の引き下げを提案し各戸500円減が決定されている。

板垣会長からは「今後も交通事故防止啓蒙活動は行なっていくが、コロナ禍の終息を踏まえた新たな発想の事業活動を模索中」と話していた。

【大瀬川体育協会】

大瀬川体育協会（熊谷俊哉会長）も代議員制で総会を行っ

ており 昨年に引き続き代議員（30名）に総会資料を送付、23名より書面議決承認を戴いている。

総会資料によると、昨年はコロナ禍のため地区民運動会が中止となったが、感染対策をとりながら町内で行われた卓球大会一般の部、バレーボール男子の部で優勝、グラウンドゴルフ大会、ソフトボール大会での準優勝の成績を残している。今年度の事業計画の中で、熊谷会長は「地区民運動会は中止とせず延期とし、コロナ禍の状況を見ながら判断したい」と話していた。また、今年度会費が300円減が決定した。

天満宮の大杉を伐採

天満宮大杉は根元や幹が朽ち枯死寸前で倒木の恐れがあったため、山祇神社ではやむなく5月13日に大杉を伐採した。

携わったのはマルカン林業（菅原洋二代表）。大瀬川で二番目に太い大杉とあって、作業は花巻クレーンの25屯の大型クレーン車を使った見た事も無い大掛かりなものであった。

クレーンから吊されたゴンドラに菅原洋二さんと熊谷利昭さんの二人が乗り込み、はじめにチェーンソーで枝を払い、次に大杉を上から順に4等分し、切り取った枝や幹をワイヤーを使って吊り下げながらの作業で、下から見ていると、ゴンドラが大きく揺れたり、切り取った枝をワイヤーで結わえた時なども、乗っているゴンドラが幹にぶつかって跳ね返るなど、危険を伴う作業となった。4トンのクレーンダンプで、熊谷静治さんと菅原道義さんが運搬を担い、切り取った樹木は山祇神社西側の駐車場に運んで積み重ねている。

圧巻だったのは一番下の部分を切り取った時で、チェーンソーの刃渡りはなんと170cmもある見たこともない大きなもので、重さも相当と思われたが菅原洋二さんの腕前で直径130cmを超える大木を見事に一直線に切り取った。この特殊なチェーンソーは父の菅原輝男さんのものを大切に使っていると言う。

天満宮大杉は古木だけあって、作業中に樹木の洞穴から何の鳥か分からないが住処にいたり、朽ちた根元からは、切るとき振動で、滅多に見られない真っ黒くなるほどの大きな蟻の大群が逃げ惑う様を見た。

伐採の数日前には、直町宮司や神社役員で清祓を行い、また当日も作業前に菅原洋二さんが作業者と一緒に作業安全を祈願して清祓もした甲斐もあって、無事に伐採作業は終了した。

天満宮大杉の年輪は342重

みつくら6月1日号に天満宮大杉の伐採時の写真が掲載されたが、畠山孝二さんが数えた年輪はなんと342重であった。特に近年50年位は、樹皮部分が殆ど成長せずに数えにくくて拡大鏡を使って調べたともこと。そこで、大瀬川で350年前はどんな時代であったであろうか調べたところ、350年前は西暦1670年で寛文10年に当たる。記録に残る大瀬川最古の戸数は「安永9年（1780）の86軒」と石鳥谷町史にあり、天満宮の杉より110年も後の事である。この頃の畑部落は、まだ南部盛岡藩に認知されていなかったもので、それら

を加えても90軒に満たない時代であった。因みに公文書に畑部落が初めて載るのは、享和3年（1803年）の藩政記録に始めて割沢2軒と記録されている（石鳥谷町史）。

大瀬川で2番目に太かった天満宮大杉は、私達の先祖の姿を見守り続けてきたのであろう。

年1回の資源回収を行う

9区子供会（畠山牧子地区長）は、5月29日に恒例行事となっている年1回の子供会資源回収を行った。今年はコロナ禍により、瓶類の回収は行わず、地域の方々に持ち寄って頂いた新聞等1980kg、雑誌等580kg、段ボール490kg、牛乳パック3kgを回収し積み込みを手伝った。

今年も「さなぶり」なし

9区自治公民館（熊谷武忠館長）では、5月29日に葛丸川河川敷の草刈りと公民館付近の花植を44名が参加して行われた。全員マスクを着用し密にならないようにして久しぶりに集合となった公民館広場では、熊谷館長より「残念ながら、今年も公民館での「さなぶり」はできませんので個々の家でお願ひします」と挨拶があった。

その後には各団体等の連絡を終えて、男性陣の9区1班は大瀬川橋から下流へ、2班は富沢橋から上流へ、3班は富沢橋から下流と松林寺橋から上流に分かれて草刈りを行い、女性陣と役員は公民館で空き缶回収と花植を行った。

スノーブレンがブルリの杜に寄贈される

一般社団法人岩手県自閉症協会、ブルリの杜（熊谷和彦・熊谷葉一両代表理事）に岩手放送の「通りゃんせ基金」から昨年のログハウスに続き、スノーブレン機器が3種類寄贈され2年連続の寄贈となった。

スノーブレンとは光や音、匂いなどで心が癒される効果を体験するもので今回は、カラフルな色がゆっくりと変化する細い線の束状の物とボール状の物と、1m位ある2本の透明な筒に水を入れて下から泡が上がり、色が変化する物タイプの3種類が届いた。

現在は、この機材を職員が設置している途中で、施設長は「広い部屋に設置するのでソファを置きスノーブレンの廻りにボールプールの設置したい今はコロナ禍で、ブルリの杜祭りも内輪で行っているが収束後には皆さんにも体験してほしい」と話していた。

今年も一斉草刈りを実施

下大瀬川美土里の会（高橋義晃代表）では、1回目の草刈り（今回は主に幹線道路沿い）を6月5日に36名が参加して行った。集合時に体温を測定し、市からの注意喚起のための「共同活動安全のしおり」を全員に配布、事故防止のため準備体操も行った。前日の大雨による法面が滑りやすいため法面の草刈りはしないよう指導し、午前中の作業となった。

みつくら

令和 3年 6月15日 第340号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

7区に1世帯が仲間入り

7区3班の辻村勝俊さん宅（林家）と菅原あさ子さん宅（太郎家）の間に滝沢市より西館さん家族が移住された。父親の勝（まさる）さん、母親の千絵（ちえ）さん、お子さんは高校1年生の莉央奈（りおな）さん、中学2年生の柚葉（ゆずは）さん、小学5年生の椿稀（つばき）さんの5人家族。大瀬川地区の皆さんよろしくお祈りします。

今年もツバメが巣立つ

高橋昭一さんに「今年もつばめが来ましたか」と聞いたところ、4月2日に1羽が、翌日2羽となって訪れた。昨年より6日、一昨年からは9日も早いそうだ。つばめは毎年玄関ホールに巣を作り、4〜5個の卵を2回孵しているとのこと。4月22日には5個の卵を確認、5月6日に巣の下に卵の殻を発見し9日には雛を確認している。昭一さんがネットで調べたところ「卵1個の半分を巣の下に落ちて生まれたことを家主に知らせ、残りの殻は外に運んで捨てる」を見つけ、毎回なぜ卵の殻が巣の下にあるのかを知る事ができたとも話していた。6月2日には、1回目の巣立ちで5羽が飛び立っていった。ちなみに、熊谷弘子さん宅でも、例年より早くつばめが訪れている。

コロナワクチンの接種始まる

昨年の初めから日本中に猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症が大瀬川でもやっとワクチン接種が始まった。このワクチンは、ファイザー製で20日間の間隔を置いて2回接種する必要がある。大瀬川の方々には概ね、石鳥谷生涯学習会館を会場に91歳以上の方は、5月6日と5月27日に希望者全員が接種済となった。また75歳以上の方は1回目5月26日に接種済で、2回目は6月16日の予定である。65歳以上は1回目が6月20日、2回目が7月11日に予定されている。5月26日（午後）には石鳥谷生涯学習会館で416人が接種している。

この時、接種の医師や看護師から駐車場の誘導員などまで携わった方々は34名以上を数えた。

接種までの流れは、指定された時間（30分間隔で指定）の30分前に受付が始まり、氏名や生年月日、接種日や予診票の確認そして、診察の後に医師や看護師によるワクチン接種となった。接種後には副反応の確認のために15分間の待機を求められた。

テレビで見た長い針での注射は痛そうだったと思ったが、接種を体験して、普通の注射の時とほぼ同じで痛くはなかった。しかし4時間程過ぎた頃、ミツバチに刺された位の痛みを感じたがそれもすぐに治まった。接種に要した時間は、受付から、待機が終わって帰れるまで55分くらいであった。

花巻市では、6月1日現在、65歳以上の予定しか発表されていないが、早く全市民の接種が終えて、元の生活に戻りたいものである。

葛丸川橋の補修工事が最盛期

葛丸川に架かる正規名称の葛丸川橋は2ヶ所あって、一つは葛丸川に架かる東北自動車道の橋で、もう一つは葛丸川に架かる国道4号線（石鳥谷バイパス）の橋である。高速道に架かる葛丸川橋の補修工事は、3月から始まっているが、いよいよ最盛期を迎えている。

この工事は、毎年東日本高速道路（株）が定期的に行っている「たわみ測定」の結果、補修工事が必要になったもの。この葛丸川橋は昭和51年に竣功し、幅は27m、長さが70mの鉄骨コンクリート橋で、今回の架け替え工事の工法は幅3m、長さ13m、厚さ50cm、重さ20tの鉄筋コンクリート製の床材約25枚を150tクレーンで吊り上げ並べていく工法となっている。床板は予め工場で作られ花巻インターに運ばれている。

現在は工期短縮の踏まえ、地上測定の他にも人工衛星からGPSで測定することで床板をミリ単位まで図面作成が可能で、最後の床板の継ぎ目には、特殊なジェットコンクリート（1時間で強度が出る1m320万円位）を入れ繋いで行く工法である。工期は8月31日までで、株式会社 安藤・間が施工している。

橋の保全には、劣化やたわみ調査が必要とのことで、少なくとも区間を分けながら、平成22年から30年まで定期的に東日本高速道路（株）の金子健氏や岩手大学工学部社会環境工学科の岩崎正二氏達が調査しているとのこと。安全のためには目に見えない努力をしていることに感心した。

市教育委員会が花菖蒲園の結実調査

花巻市教育委員会文化財課では、大瀬川自生花菖蒲園の結実調査を行った。昨年花菖蒲園で行った「野点の会」の時に、花菖蒲の茎に赤いリボンで印をつけてあったのを見つけたが、それらが結実調査のためであったという。調査は令和2年6月の花芽から結実の10月13日まで数回行われている。

調査した文化財課の平野克則さんにお聞きしたところ「大きい莢（さや）には沢山の種子が入っていたが、小さい莢には未

熟趣旨が多かった」ことや「1本の花茎に付いた莢数は、植生密度が高いほど多い」のことが分かったという。

葛丸の農村環境を守る会では、今年も7月10日頃に大瀬川自生花菖蒲園で「野点の会」を計画しているが雨の降らない日を選ぶので、2日前にしか実施日は決めかねている。

昨年の野点の会には29名の方々に参加していただいたが、今年も多く参加者を望んでいる。

参加希望者は6月末までに「葛丸の農村環境を守る会」の役員に連絡頂ければ、開催日をお知らせする予定になっている。尚、当日の野点の会では教育委員会から詳しい調査の講話もお聞き出来ればと考えている。

畦畔一斉草刈りが始まる

葛丸の農村環境を守る会（板垣幸夫会長、構成員235世帯372名）では、今年度の畦畔一斉草刈りが6月1日から始まり、期間は7月31日迄の61日間となっている。作業時にはくれぐれも健康管理と安全に注意を払いたい。

運動公園の花壇がカラフルになる

5月30日に大瀬川子供育成会（菅原康文会長）は、今年もコロナ対策のため参加者を絞り、5年生、6年生の児童9人と保護者11名で大瀬川運動公園花壇に花苗を植えた。

前日に育成会の役員が花壇を整地し、花苗は光林会の花工房さ〜らから大瀬川活性化会議が購入した。

花の種類はサルビアが赤、白、青の3色と、マリーゴールドが黄、オレンジ2色の合わせて5色。

毎年花の植え方は区毎にデザインしたが、今年は趣向を変えて3区とも同じ配列にしてみた。

子供達が絵を描いた看板を立て、区ごとに記念撮影をして作業は終了した。

今後の草取りは、子供育成会と千鳥苑の方々にも手伝って頂く予定にしている。

大雨で草が重かった第1回環境整備

今年度1回目の大瀬川運動公園と県のチェーン着脱場を含む振興センター駐車場付近の環境整備が8区の担当で6月5日に行われ、39名が草刈り機や熊手、鎌を手集まった。

朝6時に熊谷秀夫会長の挨拶で作業が開始されたが、前日は大雨で100mmもの降水があったため、グラウンドは一時池のようになっていた。翌朝は雨も止み水は引いたものの、濡れた草は非常に重く、軽トラックに積み込むのも、草を廃棄するのも重労働だった。

また県道13号線の東側は草の丈が高くて面積もあり軽トラックで5台分も運んだ。

運動公園内に軽トラックが入れないため、おおむね1時間くらいで軽トラック9台分を運び終了した。

次の環境整備は8月のお盆前に7区の担当で実施される予定とのこと。